

無痛分娩について

当院では、自然分娩・無痛分娩のどちらの方法を選んでいただいても、安全な出産ができる体制を整えています。合併症がなく分娩が正常に経過している時は、多くの場合は自然分娩が可能です。しかし、分娩に対して特に強い不安をお持ちの場合は、お産がスムーズにいかなくなることもあります。そこで、分娩中の陣痛を適切な方法で和らげることは、安全に出産をする一つの方法とも考えられます。また、妊娠中に高血圧となった方には、医学的な適応で無痛分娩を行った方が良い場合もあります。

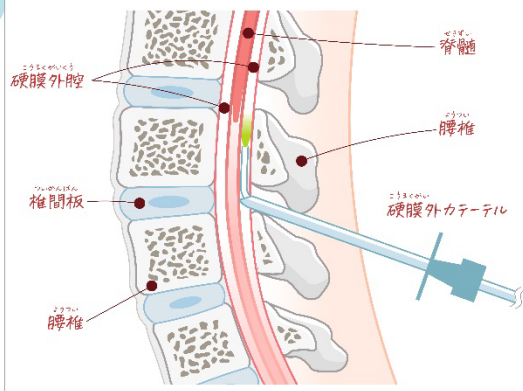
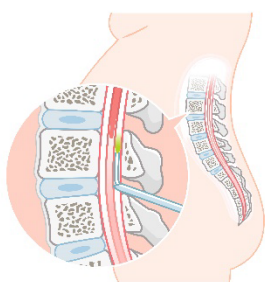
当院での無痛分娩について

- 当院での無痛分娩は、原則計画分娩で行います。
- 硬膜外麻酔で行います。
- 無痛分娩の予定前に陣痛が発来した場合は、平日（月～金）の昼間は医療スタッフに余裕があれば無痛分娩を行う事も可能ですが、夜間・土曜・日曜・祝日などは、無痛分娩を開始する事が出来ません。
- 妊娠の経過（合併症など）によっては無痛分娩ができないこともあります。
- 分娩時間が延長する可能性や吸引分娩が必要となることがあります。

硬膜外麻酔とは？

当院での無痛分娩は、標準的な方法である硬膜外麻酔で行います。硬膜外麻酔は脊椎の中の硬膜外腔に細いチューブ（硬膜外カテーテル）を留置し、麻酔薬を注入することによって陣痛による痛みを軽減する方法です。この方法は胎児への影響がほとんどなく、個人差はありますが確実に鎮痛効果があります。無痛分娩といっても全ての感覚がなくなってしまうわけではなく、ある程度触っている感覚や圧迫感が残ります。

硬膜外麻酔について



硬膜外麻酔は、脊髄を覆っている硬膜という膜の外側（硬膜外腔）に細い管（カテーテル）を入れ、そこから局所麻酔薬を入れて痛みを和らげる方法です。

麻酔を受ける姿勢



側臥位

横向きに寝た姿勢で背中を丸め、背骨の間が広く開くように体位をとります。



具体的な方法について

	経産婦の方	初産婦の方
無痛分娩予定日の決定方法	早い段階の妊婦健診時に無痛分娩の日程を決定します。	子宮頸管が熟化してからの入院となるため、原則36週以降の妊婦健診時に、外来担当医と無痛分娩を行う日を決定します。
入院日	無痛分娩予定日の 当日に入院	無痛分娩予定日の 前日に入院
手順	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院後、胎児・母体に問題のないことを確認します。 2. 診察にて子宮口の状態を確認し、場合によっては子宮内にミニメトロ(子宮口を広げる水風船のようなもの)を挿入します。 3. 点滴で陣痛促進剤を開始します。 4. 硬膜外麻酔のカテーテルを留置します。 5. 陣痛が強くなってきたら、麻酔薬を注入し痛みを取ります。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院後、胎児・母体に問題のないことを確認します。 2. 診察にて子宮口の状態を確認し、場合によっては子宮内にミニメトロ(子宮口を広げる水風船のようなもの)を挿入します。 3. 子宮頸管熟化と軽い陣痛促進作用のある薬を内服して頂きます。 4. 硬膜外麻酔のカテーテルを留置します。 5. 翌日から陣痛促進剤の点滴を行い、子宮口が約4cm開き、陣痛が強くなってきたら、カテーテルから麻酔薬を注入し痛みを取ります。
分娩予定	当日に出産となる可能性が高いですが、翌日になる事もあります。	初産婦の方は経産婦の方のように、当日に出産とならない事もあります。その場合は翌日も継続して無痛分娩を行います。

起こりうる副作用や合併症

硬膜外麻酔による無痛分娩の安全性は十分な管理のもと確立されていますが、いくつかの副作用・合併症が発生する可能性もあります。副作用・合併症が起こった場合は慎重に観察し適切な治療を行います。

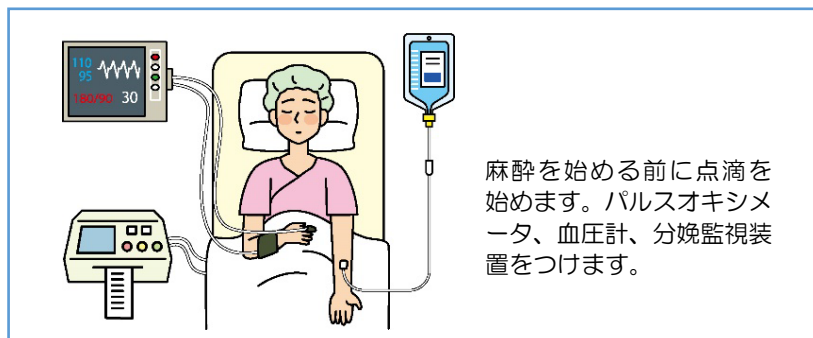
1. 低血圧、嘔気、嘔吐
2. 頭痛、発熱、かゆみ
3. 尿が出にくい
4. 稀な合併症として、局所麻酔薬中毒・全脊髄くも膜下麻酔・神経障害・血腫・アナフィラキシー等があります。

このようなときは、ナースコール

1. (今まで動いていた)足が動きにくい。
2. 吐き気がする。
3. 何か出た感じがする。
4. お尻が押された感じ、「うんち」に行きたい感じがする。いきみたい。
5. 痛みが急に出てきた。

安全・安心して無痛分娩を行うために

胎児、母体の状態は連続してモニターで観察します。



立会分娩について

立会分娩も可能です。入院当日の付き添いは陣痛が始まってからになります。

入院中の過ごし方

1. 無痛分娩中は麻酔の効果により足に力が入りにくくなるため、ベッドで寝たまま過ごします。自分で歩いてトイレには行けませんので、尿管カテーテルを入れて尿を取ります。
2. 飲水の制限はありません。食事は入院後からチューブを入れる処置の前までは控えてください。昼食から当院にて軽食を準備しています。



お産が進まない場合

1. 当日に有効な陣痛が起こらず分娩が進行しない場合は、その日に赤ちゃんが産まれない可能性もあります。
2. 夕方になっても分娩が進行していない場合は、無痛分娩を一旦中止します。
3. 夜間は硬膜外麻酔のリスクを考慮し、無痛分娩を行いません。自然な分娩経過となります。

同意書の提出

無痛分娩を希望される方は同意書の提出をお願いします。
同意書は無痛分娩で入院された際に、2階病棟にご提出ください。